

富田林市・大槌町の連携協力に関する 基本協定締結 記念講話

—大槌町の復旧・復興について—

日時：令和2年11月29日（日）



大槌町

大槌町の紹介

・ 岩手県中部の沿岸地域に位置
太平洋を臨むリアス式の海岸美

・ 面積 200.59km²

・ 人口 11,458人
【令和2年10月1日現在 住民基本台帳】

・ 町の基幹産業は水産業
(アワビやウニの採集、ワカメ
やホタテの養殖、鮭やサンマ、
イカなどの漁業)

ACCESS INFORMATION



飛行機ご利用の場合

大 阪	1時間25分	いわて花巻空港
札 幌	55分	いわて花巻空港
福 岡	1時間25分	いわて花巻空港

大塚伊戸経由
※花巻空港から新花巻駅までタクシーで約10分

自動車ご利用の場合

浦和IC	5時間	東和IC
東和IC	1時間30分	釜石
遠野	1時間	大槌
釜石	16分	大槌
宮古	1時間	大槌

高速バスご利用の場合

上り			
大槌駅前	21:00頃	釜石駅前	
池袋駅西口	7:00頃	新花巻駅前	
下り			
池袋駅西口	22:25頃	新花巻駅前	
大槌駅前	>12:00頃	釜石駅前	

鉄道ご利用の場合

■東北新幹線	2時間	新花巻
■JR釜石線	5分	新花巻
■JR山田線	14分	大槌
■大船渡線→三陸鉄道リアス線→JR山田線	2時間20分	盛岡
一関	2時間20分	盛岡
盛岡	50分	釜石
釜石	16分	大槌

ひょっこりひょうたん島のある町 おおつち



町章



ひょっこりひょうたん島のモデルとされる
蓬莱島（ほうらいじま）



イメージキャラクター
おおちゃん



大槌駅に設置されている
ドンガバチョ像

ひょうたん島の形をした大槌駅

400年前のおおつちびとの思いを受け継ぐ



江戸時代、江戸で大評判になった大槌の塩漬け鮭が「新巻鮭」のルーツ。大槌は「新巻鮭」発祥の地です。

古くから漁業が盛んだった大槌では、秋になるとこの地を流れる大槌川や小槌川に鮭が遡上し、鮭漁で賑わいました。かつて鮭は平安時代の朝廷にも献上されるほどの高級食材でしたが、大槌から江戸まで20日以上もかかるため、この貴重な鮭を生で出荷することはできませんでした。

さて、頃は豊臣秀吉公天下時代。時の大槌城主・大槌孫八郎政貞の案で、鮭を塩漬けし、長期に保存できる手法を開発。その鮭を江戸に運んだところ、味の良いことで大評判となりました。その独特の姿から「南部鼻曲がり鮭」と呼ばれ、これが今日の大槌の「新巻鮭」のルーツとなったと言われています。



伝統の味と技

新巻鮭

おおつち



昭和44年に大槌町の「吉里吉里ドライブイン」で誕生した「磯ラーメン」は、いまや三陸沿岸では、ごくあたりまえのラーメンとして定着しています。

食欲をそそる、深い磯の香り。最後まで飲みほしたくなるような、あっさりとしたスープ、その旨味と交わる昔ながらのやわらかな麺。上には、ヘルシーなワカメやフノリ、マツモといった海藻、シュウリ貝やホタテ貝、イカ、カニ、エビなどの魚介類がのっています。

大槌磯ラーメンの 基本条件

1. 海藻を使う
2. 海鮮物を使う
3. 油をおさえる

大槌町の新たな取り組み

令和2年1月に新おおつち漁業協同組合や日本水産株式会社などの間で協定が結ばれ、養殖が進められていたギンザケとトラウトサーモン、通称「岩手大槌サーモン」の初水揚げが本年6月15日に行われました。



船越湾に整備した生け簀



令和2年1月に新おおつち漁業協同組合や日本水産株式会社などの間で協定が結ばれ、養殖が進められていたギンザケとトラウトサーモン、通称「岩手大槌サーモン」の初水揚げが本年6月15日に行われました。

「岩手大槌サーモン」は船越湾に整備した2基の生け簀で昨年12月から養殖が始まり、今回の初水揚げではギンザケ約1.5 tを出荷、県内外の店頭や居酒屋、料亭などで提供されます。

2基の生け簀がある船越湾は水温が低く、他の産地よりも遅い時期まで出荷できる利点があり、ギンザケは本年7月中旬までに約50 t、トラウトサーモンは7月中旬から同じく50 tの出荷を目標とし、町の根付く新たな産業として期待されます。

大槌ジビエソーシャルプロジェクト



大槌ジビエサイクルのイメージ図



【プロジェクトの概要】

(1) ジビエサイクルの構築シカを地域資源として、有効活用するジビエ事業を、持続可能なソーシャルビジネスにするためのサイクルを構築します。

(2) ジビエPR事業
ジビエサイクルによる多角的な事業展開をPRし、ジビエを基軸とした関係人口・交流人口の創出・拡大を目指します。

【解決したい地域課題】

- ニホンジカによる農林業被害
- 高齢化によるハンターの担い手不足
- 新産業の創出
- 関係人口・交流人口の拡大

1. 被災状況

● 人的被災状況

死亡者	818名
行方不明者	416名
震災関連死	52名
計	1,286名



壊滅状態となった中心市街地

● 物的被災状況

家屋全壊	3,579棟
家屋大規模半壊・半壊等	796棟
浸水面積	4km ² (宅地浸水率 : 52%) (商業地浸水率 : 98%)

大規模津波火災で中心市街地は火の海



火災鎮火後の中心市街地の惨状



旧役場庁舎 災害対策本部詰めの職員28名が犠牲に



津波で民宿に打ち上げられた「観光船はまゆり」



卒業式直前の体育館の避難所 初期の避難所運営は混乱を極めた



大槌町の避難所は、最大で38箇所開設されました。震災から5ヶ月となる8月11日に、全避難者の応急仮設住宅等への移住が完了し、町内の全避難所を閉鎖しました。

支援物資の到着まで 廃材などをかき集め寒さをしのぐ



2. 応急仮設住宅の入居状況



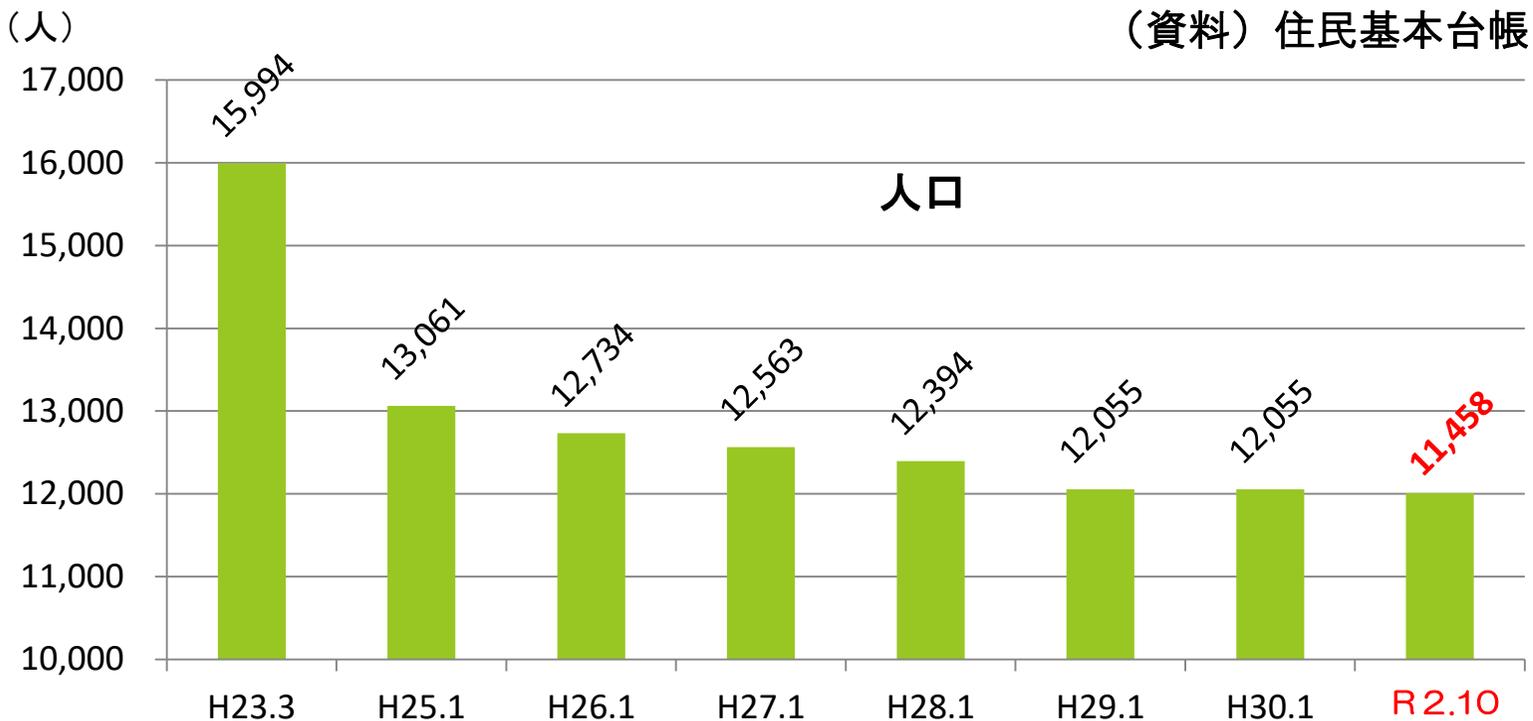
令和2年3月末供用終了



令和2年度中にすべての解体工事が完了予定

区分	H24年4月	R元年10月	R2年3月末
入居者数	4,730人	168人	供用終了
団地数	48団地	25団地	
住宅戸数	2,106戸	1,230戸	
入居戸数(世帯数)	2,084戸	97戸	
入居率	99%	7.9%	
空き部屋数	62戸	1,127戸	

3. 人口及び世帯数の推移



震災前 (H23.3.1)	震災後 (H24.4.1)	現在 (R 2.10.1)
15,994人	13,249人	11,458人
6,438世帯	5,529世帯	5,302世帯

震災前と現在の比較 人口▲4,536人、世帯数▲1,136世帯
(▲28.4%) (▲17.6%)

4. 復興事業の進捗状況

① 住宅再建に係る主要事業

① 土地区画整理事業

平成31年1月完了

仮換地済面積

(%) 0 20 40 60 80 100

使用収益済面積

(%) 0 20 40 60 80 100

② 防災集団移転事業

平成31年3月完了

整備済宅地戸数

(%) 0 20 40 60 80 100

③ 災害公営住宅

R元年11月完了

完成済戸数

(%) 0 20 40 60 80 100

④ 漁業集落防災機能強化事業

H29年7月完了

整備済宅地戸数

(%) 0 20 40 60 80 100

換地計画面積	345,642.6m ²
仮換地済面積	345,642.6m ²

換地計画面積	345,642.6m ²
使用収益済面積	345,642.6m ²

※東京ドーム約7,400個分に相当する面積

計画宅地数	422戸
整備済宅地戸数	422戸

計画戸数	876戸
完成済戸数	876戸

※震災前の町営住宅数は359戸

計画戸数	12戸
整備済宅地戸数	12戸

▼②中心市街地定点写真（町方地区）



2014年（H26年）9月



2015年（H27年）1月



2016年（H28年）4月



2016（H28年）年8月

▼②中心市街地定点写真（町方地区）



2017年（H29年）3月



2017年（H29年）8月



2018年（H30年）4月



2020年（R2年）7月

○岩手県立大槌病院

平成28年5月9日開院

診療科（内科・外科・整形外科・皮膚科・眼科）
病床数 1病棟/一般病床50床



○大槌消防署

平成28年3月19日落成・運用開始



○桜木町地区避難路

平成29年4月17日利用開始



○大槌交番

平成28年12月5日開所





④被災住民の住宅確保

○寺野地区災害公営住宅
(戸建タイプ) 平成28年5月完成



令和元年11月 全戸完成

○榎内第2災害公営住宅
(長屋タイプ) 平成28年3月完成



○末広町災害公営住宅
(集合タイプ) 平成28年3月完成



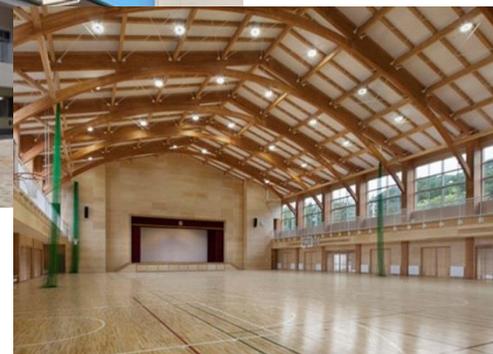
(単位/戸)

区分	戸建	長屋	集合	計
町営	204	341	111	656
県営	0	0	220	220
計	204	341	331	876

▼
⑤ 教育施設等の復旧

○大槌町立大槌学園
小中一貫教育校

平成28年9月26日開校
4小学校・1中学校を合わせて再建
大槌町独自事業として、小中一貫教育「ふるさと科」を実施している



○東京大学大気海洋研究所沿岸センター

平成30年7月20日完成記念式典



▼
⑥ 交通網の整備

○三陸鉄道リアス線「大槌駅」
平成31年3月23日開通



○三陸沿岸道路・釜石山田道路
(大槌IC～釜石北IC) 開通 令和元年6月22日開通



▼
⑥ 交通網の整備

○新おおつちトンネル 令和元年9月29日開通



○大杵橋 令和元年9月29日開通

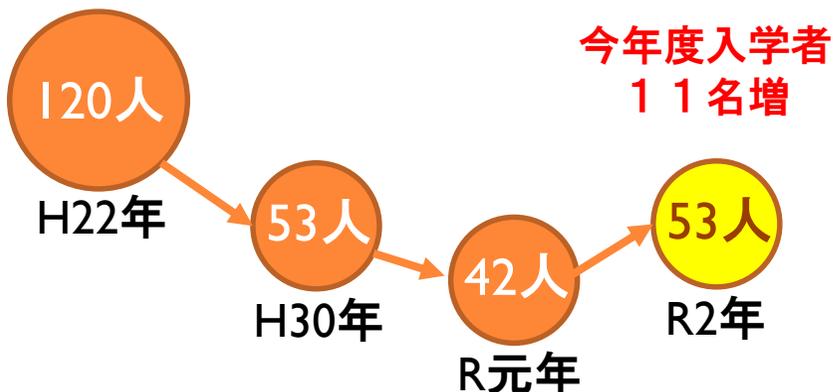


5. 大槌高校魅力化の取り組み

地元高校は人材育成の最重要拠点であり、地域振興の『核』

①昨年度より校内に町からコーディネーターを派遣し、魅力化を推進

入学者数推移



②地域が教科書！「三陸みらい探究」

大槌の地域を舞台に探究的な学習を進めていく「三陸みらい探究」を県立学校と共につくりあげています。

(地域における郷土芸能の意義についてプレゼン)



③東京大学海洋研究所と連携し、「はま研究会」を設立

東大の研究所へ生徒が通いウミガメや貝の研究をお手伝いしています。



④生徒の全国募集を開始！

今年度生徒2名を目標に全国への生徒募集を行います。

3年間の濃密な交流により双方が成長していきます。



6. 富田林市からの温かいご支援



富田林市から贈られた「奇跡の復興米」を食べる大槌学園の生徒たち（R2.11.26 給食）

大槌町給食センターへのご支援

年度	内容	
H27年度	奇跡の復興米	750kg
H28年度	奇跡の復興米	300kg
H29年度	なす	20kg
H29年度	奇跡の復興米	300kg
R30年度	奇跡の復興米	300kg
R 1 年度	奇跡の復興米	300kg
R 2 年度	奇跡の復興米	300kg



菊池 妙さん

7. 大槌町における震災伝承の基本コンセプト

「忘れない」

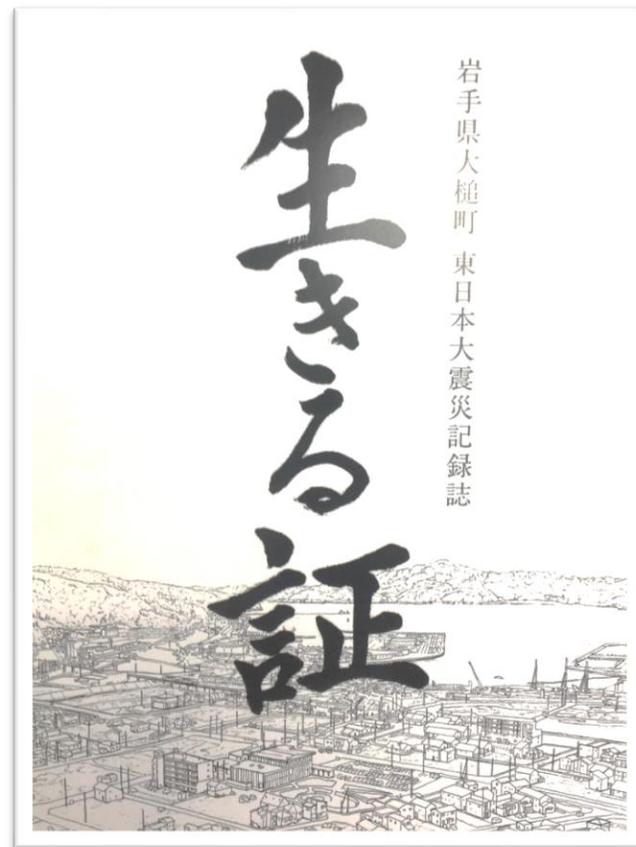
事実を受け止め明日へと歩むため、津波で亡くなった方々を思い供養し、心の復興を果たすとともに、津波の悲劇を忘れない、困難に直面しながらも歩を進めてきた姿を忘れない、そして多くの人に支えられ復興を進めていることへの感謝を忘れない。

「伝える」

二度と悲劇を繰り返さないため、近年加速的に発達した技術も活用し、もの、記録、写真や映像等、あるいはそれらの複合的な方法で伝える。

「備える」

防災の知恵や知識を身に付け、地域や自らが津波の教訓を活かし、いずれまた起こる震災に備える。



大槌町東日本大震災記録誌
『生きる証』
(令和元年7月発行)

言葉「逆境に立ち向かう」





Otsuchi Town Web Site

大槌町



ご清聴、ありがとうございました。



岩手県大槌町長 平野 公三

〒028-1115 岩手県上閉伊郡大槌町上町1番3号

TEL 0193-42-2111 FAX 0193-42-3855

Eメール kohzoh@town.otsuchi.iwate.jp